

## GIGA スクール構想の実現へ向けて

今回は、GIGA スクール構想で整備される学習者用端末の概要や先進校での実践事例、今年度中に各学校で取り組むことなどについて紹介します。GIGA スクール構想の実現へ向けて、はじめての一步を踏み出しましょう。

### 学習者用端末の整備について

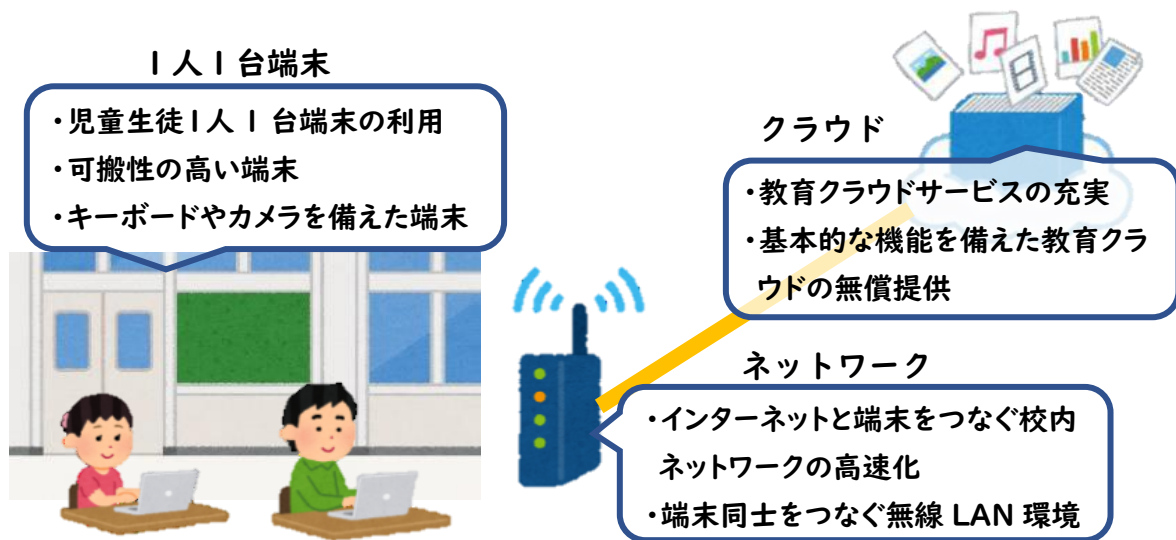
・GIGA スクール構想では、全国の国立・公立・私立の小学校・中学校・特別支援学校を対象に1人1台端末が整備されます。また、長崎県においては、県立高等学校にも1人1台端末が導入されることになりました。今後、県内の小・中・高・特支学校において、1人1台端末を活用した授業等の展開が期待されます。

#### 【ポイント】

- 全国の小・中・特別支援学校（小中学部）に1人1台の学習者用端末が導入予定
- 県内の県立高等学校に1人1台学習者用端末と教師用端末が今後導入予定

### 新しい教育ICT環境とは

GIGA スクール構想で整備される新しい教育ICT環境とは、児童生徒が1人1台の学習者用端末を利用し、高速通信ネットワークを介してクラウドサービスを利用する環境のことです。

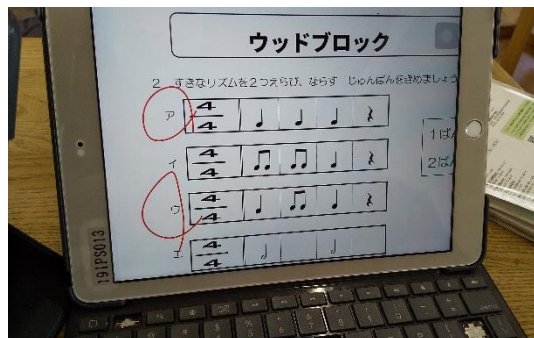


#### 【ポイント】

- 児童生徒1人1台の学習者用端末（キーボード、カメラ付）の整備（持ち運びが容易な端末）
- 学習者用端末同士をつなぐ無線LAN環境の整備（校内ネットワークの高速化）
- 教育クラウドサービスの利用（Web上のサービスを中心に利用する）

## 県内における実践事例

長崎県内でも、新しい教育ICT環境を活用した実践がスタートしています。以下の実践事例を各学校における端末活用の手がかりにしてください。



九州文化学園小学校 [iPad]

教科：音楽（小学2年）

- ・教師が教科書の一部をカメラで撮影後、児童用端末へ転送し、注目してほしい箇所を焦点化しながら説明する。
- ・授業支援システムを活用し、ワークシートの配付・回収を短時間で行う。



長崎南山高等学校 [iPad]

教科：化学（Webテスト）

- ・生徒用端末画面に表示された問題を見て解答する。解答は画面上の選択肢から選択して教師に送信する。教師は正答率を公開し、正答率が低い問題の確認を行う。

## 次年度に向けた取組

次年度からは、1人1台端末等を活用した教育実践がスタートします。今年度末までに行うべき準備について紹介します。できることから取り組んでいきましょう。

（例）【管理職】・担当者の選定（管理、運用の両面から）

- ・校内体制の構築（個人ではなく組織で）

【研究担当】・校内研修の計画（全ての教員で、まずは機器操作体験から）

- ・先進校視察（まずは県内、近隣県へ）

【個人】・情報収集（Webサイト、動画共有サイトから）

- ・クラウドサービスの操作習熟

### 【ポイント】

- 管理職は、校内の組織づくりを行う
- 研究担当は、全職員を対象にした校内研修を計画する
- 個人では、情報収集や端末・クラウドサービスの操作の習熟に取り組む

県教育委員会では、令和3年度に関係の研修講座を開催する予定です。